

# 35歳 だった

## 「伝統」と「型破り」を継承する茶人

茶人アーティスト

# 北澤 恵子

北澤が表千家流の講師を志した理由は二つあった。一つはアメリカ東海岸地区に表千家同門会米国東部支部を作る役員一人として活動したいと思ったから。もう一つは生まれつき左手の指が欠損した「小さい手を持つ次男のためだ。

講師となつてから、表千家流の茶道の美しさや、おもてなしの「伝統」を継承すると同時に、次男が片手だけでも茶道を楽しめるよう、「型破り」に挑戦している。「型破り」とは、基礎がある人にこそできるもの。

「伝統ある茶道の基礎を分かった上で、片手でもお点前ができるということをお教えしたいと思ったのです」

日本でインテリアデザイナーとして働いていたが、

5年ほどすると、「画家になつて成功するのだとニューヨークに渡つた。思い込んだら突き進むタイプ。ファッション工科大学でデザインアートの学位を取り終えたところに結婚し絵を描きながら、8歳のころから中学まで習っていたお茶の世界へと舞い戻つた。アートとお茶には美という共通点があるのだという。

「まず、茶室の中に生活感があつてはいけないと思います。茶室は、これ以上研ぎますることができない非日常空間を作り出すという、和の美的センスです。美に国境はないので、西洋のモダンアートが茶室にあつても良いと思います」

2人目を妊娠したのが35歳のとき。次は女の子を期待して受けた超音波検査で分かったのは、胎児の左手に欠損があるということだった。育てているの

かという不安や、ほかにも問題があるのではという不安が重なり悩んだ。

「左手の指がないくらいどうつてことない。外でいじめられても家で愛してあげれば大丈夫」

産むのが自然だという夫のおおらかな言葉に、産むことを決意する。

「次男が生まれたことによつて、苦労どころか、お付き合いのなかつた人と付き合い合うきっかけができて、考え方も前向きに変わりました。神様からのプレゼントだと思っています」

家族で次男の左手を「小さい手」と呼びかわいと言つので、次男は左手を隠すこともなく明るく育つてきた。8歳からお茶を始めた長男が、3年後に初のお点前を披露したとき、「僕もやりたい」と8歳になつた次男もお茶を習い始めた。それを機に北澤は「型

破り」であつてもお茶の心があればよいと考えようになる。例えば、年代によつてもその人なりの良きがあるという。

「子供が背筋を伸ばして懸命にやる姿は初々しく、60代の貫録あるお点前もあれば、さらに年配の方の「わびのあるお点前もあります。おいしいお茶を差し上げようという気持ちがあれば、それでいいと思います。今は次男のため片手のお点前でもどうやれば美しく見えるかを常に考え教えています」

数年後には、次男の「小さい手」で水の流れるようなお点前が披露できることを楽しみにしている。

さらには茶道員にもその「型破り」を取り入れたいという。

「ニューヨークの窯で焼ける作家さんの作品を使つてみたり、人が見て美しい

と思える現代アートの作家さんの器を茶道具に見立てたりして、茶事を行つてみたいですね」

表千家流を広めると同時に、ニューヨークでしかできないお茶の美の世界を「伝統」から離れ過ぎないように追求していく。

今後の目標は、懐石料理を伴いながら、4時間近くお茶の話しかしない、究極のお茶好きのための茶事を行うことと、その仲間を増やすこと。

「じきたりというのは一部で、ほかにもっと楽しいことがありますので、皆さんと一緒に茶事を楽しめると思います」

息子たち2人と一緒に、伝統を離れ過ぎず、「型破り」な茶事ができる日と、夢はますます膨らむ。

敬称略(ベイリー弘恵)



きたざわ・けいこ

奈良県生まれ。武者小路千家流茶道を8歳で始め、中学生まで続けた。大阪芸術大学デザイン学科を卒業。1991年、丹青社から出向し牛建務デザイン事務所5年間働いた後、96年に米来。98年FIT(ファッション工科大学)ファッション学科卒業。99年から表千家流茶道を習い始め、2009年に表千家流茶道講師の資格を取得する。現在ニューヨーク市ブルックリンや、ニュージャージー州の学校で茶道を教える、茶会やデモンストレーションを行う。表千家同門会米国東部支部役員。雅号北澤宗紫(www.murasaki-chanoyu.com)

2004

35歳だった年の  
できごと

- アテネ・オリンピック開幕
- 日本航空と日本エアシステムが完全に経営統合
- ニンテンドーDS発売
- 日本で鳥インフルエンザの感染が公式に確認される
- イラク日本人質事件発生